

## 飄々と実務する農学博士 構造家・蒲池健

朝倉幸子◎TH-1  
illustration:Taco

### ■ 建築構造への興味

蒲池健さんと覇志堂との出会いは、7年程前構造家・山田憲明さん（本コラム34号に登場）の事務所の所員だったころ。人を惹きつける妙な魅力がある蒲池さんを覇志堂は好きだという。何事も乗り越えていけそうなしなやかさをもつ人。東京大学農学部を出た農学博士でもある髭が似合う長身の構造家の心の奥にある想いとは？

蒲池さんは1977年に千葉県に生まれ埼玉で好い家族たちに囲まれてゆったりと育ったと見える。工学系では八幡製作所のエンジニアだった母方の祖父と宇宙工学エンジニアの弟がいて、頭脳明晰は血筋のよう。東京大学大学院農業生命科学研究科の今年鬼籍に入られた安藤直人先生の研究室でひたすらボルト接合の研究をしていたとか。ところが進路や学部選びも研究も「面白そうだ」という程度の選択だったとそっけないお答え。が、ぼつりと修士の1年間を寄り道してバンドに没頭したと明かした。ピアノからトランペットへと音楽を広げたとか。仲間が就職していくので復学して博士へ駒を進めたのも、漠然としたものだったのでしょうか。

### ■ 稲山教授

准教授として実務経験も豊富な稲山正弘先生が来られて、それまで「研究の為の研究だった」のが「視界が変わった」。五月祭で先生は、合板にスリットを入れたユニットを組み合わせてモニュメントを作りたいと熱く語る。皆初めてのセルフビルドに沸き立ったが、蒲池さんの感動の視点は「モノは壊れる！！」と座屈

して壊れたことに向けられた。学生に設計思想をぶつける稲山先生。蒲池さんの創造の窓口が開いた。翌年にはその年のテーマとなった工法で20mの木製ドームを率先して提案する蒲池さんがいたのです。博士課程を終えて半年後に農学博士を取得。稲山事務所設計をしないと希望して稲山夫人も含めて三者面談会となった。結果大学に残り稲山事務所の設計にもかかわることになったそう。2013年3月まで東大アジア生物資源環境研究所センターの特任助教として木質構造の研究もしたのでした。その後、山田憲明構造設計事務所に行ったのは木構造振興客員研究員の原田浩司さんの紹介。3年間所属しての国家試験、当時は農学部出身では受験資格も要交渉だったと苦笑い。山田さんからは構造家と建築家との実務的なやりとりを学べた。かつ、山田さんが15年間、師の構造家・増田一眞先生から得たエキスも隔世で吸収したはずなのです。

### ■ こそこそと？

「構造事務所KMC」はカマチの頭文字。木構造が美しい自宅建物は設計が、彦根アンドリアさん。建物名を社名にしたという。Mが夫人のイニシャルだが解釈はご自由にと、屈託がない。今活躍している建築家から大型プロジェクトの相談もあるなど、かなり多忙だが所員を雇うことはしないつもり。「本来構造設計とはひとりでやるものだから」。誰かとパートナーシップを組むことはあるかもしれないが、蒲池さん自身も設計は一から十まで一人でやりたい。「建築家と構造家の意匠への想いが一致せず納得しないものはやるべきではない」とも考えている。好きな構造家は物理や数学を駆使しながら鉄筋コンクリート構造の黎明期に数々の先進的な試みに挑戦された坪井善勝先生だ。

「こそこそ仕事をしたい」という独特の思いをボソッと語る蒲池健。設計の実務を継続しつつ、研究者としても大成する器の構造家なのです。

